

---

# 木こりの息子

立花友香

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

木こりの息子

### 【Nコード】

N5391B

### 【作者名】

立花友香

### 【あらすじ】

寓話的小噺。心の伴わない善意に何の意味があるっていつの？

森の入り口に住む木こりの息子は笑わなかった。

木こりの仕事を手伝うときも、同じくらいの子どもと遊んでいるときも小さな口をきつと結んで決して笑顔を見せることはなかった。

ある日森に住む魔女が村の人々にこう予言をした。

「木こりの息子を笑わせた者には大金が手に入るだろう」

それを聞いた村の人々はこぞつて木こりの息子を笑わせようとした。ある者はご馳走を用意し、またある者は曲芸一座を呼び寄せ、物語を語り、名品珍品を見せ笑わせようとしたが、息子はくすりともしない。

それどころかご馳走には手をつけようとしないうし、曲芸は顔を覆って見ようとしないうし。

一体どうしたものかと思議に思つて村の人々が息子の生活を観察してみると、木こりは息子がご馳走を食べたり、曲芸を見て楽しんだりすると嵐のように怒るのだ。

これでは木こりがいる限り息子が笑うことはないだろう。

そこで村の人々は皆で木こりを裁判にかけることにした。容疑は息子への虐待だ。

裁判はとんとん拍子にすすみ、木こりは絞首台へと上ることになった。

処刑には木こりの息子も立ち会った。

足台が払われ、木こりが生き絶えると、村人たちは息子にこう言った。

「さあ、おまえを苛める者はもういないよ。笑いなさい」  
すると息子は笑った。

しかしその笑いはまるで悪魔が笑ったかのように冷たく不気味で、人々は凍り付いた。

そして恐怖のあまり、息子をも殺してしまった。  
木こりの家からはたくさんの金貨や宝石が出てきて、魔女が予言をしたように村の人々は大金を手に入れたが、彼らは誰一人として生涯笑うことができなくなった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5391b/>

---

木こりの息子

2011年2月1日06時43分発行